３－D　港湾工事出来形管理基準

凡　例

（特）　；図面及び特記仕様書
（共）　；大阪港港湾工事共通仕様書
　　大阪港港湾業務委託共通仕様書

港湾工事出来形管理基準

目　次

１．共通的工種
　１－１　圧密・排水工 …… 3-D-1
　１－２　締固工 …… 3-D-2
　１－３　固化工 …… 3-D-3
　１－４　洗掘防止工 …… 3-D-4
　１－５　中詰工 …… 3-D-4
　１－６　蓋コンクリート工 …… 3-D-4
　１－７　蓋ブロック工 …… 3-D-5
　１－８　鋼矢板工 …… 3-D-5
　１－９　控　工 …… 3-D-6
　１－10　鋼杭工 …… 3-D-8
　１－11　コンクリート杭工 …… 3-D-8
　１－12　防食工 …… 3-D-9
　１－13　コンクリート舗装工 …… 3-D-9
　１－14　アスファルト舗装工 …… 3-D-10
　１－15　植生工 …… 3-D-12

２．　土捨工 …… 3-D-12

３．海上地盤改良工
　３－１　床掘工 …… 3-D-12
　３－２　置換工 …… 3-D-12
　３－３　圧密・排水工 …… 3-D-13
　３－４　締固工 …… 3-D-13
　３－５　固化工 …… 3-D-13

４．基礎工
　４－１　基礎盛砂工 …… 3-D-13
　４－２　洗掘防止工 …… 3-D-13
　４－３　基礎捨石工 …… 3-D-13
　４－４　基礎ブロック工 …… 3-D-14

５．本体工（ケーソン式）
　５－１　ケーソン製作工 …… 3-D-15
　５－２　ケーソン進水据付工 …… 3-D-15
　５－３　中詰工 …… 3-D-16
　５－４　蓋コンクリート工 …… 3-D-16
　５－５　蓋ブロック工 …… 3-D-16

６．本体工（ブロック式）
　６－１　本体ブロック製作工 …… 3-D-16
　６－２　本体ブロック据付工 …… 3-D-17
　６－３　中詰工 …… 3-D-17
　６－４　蓋コンクリート工 …… 3-D-17
　６－５　蓋ブロック工 …… 3-D-17

７．本体工（場所打式）
　７－１　場所打コンクリート工 …… 3-D-18
　７－２　水中コンクリート工 …… 3-D-18
　７－３　プレパックドコンクリート工 …… 3-D-18
　７－４　水中不分離性コンクリート工 …… 3-D-19

８．本体工（捨石・捨ブロック式）
　８－１　洗掘防止工 …… 3-D-19
　８－２　本体捨石工 …… 3-D-19
　８－３　捨ブロック工 …… 3-D-19
　８－４　場所打コンクリート工 …… 3-D-20

９．本体工（鋼矢板式）
　９－１　鋼矢板工 …… 3-D-20
　９－２　控　工 …… 3-D-20

10．本体工（コンクリート矢板式）
　10－１　コンクリート矢板工 …… 3-D-20
　10－２　控　工 …… 3-D-21

11．本体工（鋼杭式）
　11－１　鋼杭工 …… 3-D-21

12．本体工（コンクリート杭式）
　12－１　コンクリート杭工 …… 3-D-21

13. 被覆・根固工
13－１　被覆石工 ・・ 3-D-21
13－２　被覆ブロック工 ・・ 3-D-22
13－３　根固ブロック工 ・・ 3-D-22

14. 上部工
14－１　上部コンクリート工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-22
14－２　上部ブロック工 ・・ 3-D-23

15. 付属工
15－１　係船柱工 ・・ 3-D-23
15－２　防舷材工 ・・ 3-D-24
15－３　車止・縁金物工 ・・ 3-D-24
15－４　防食工 ・・・ 3-D-24
15－５　付属設備工 ・・・ 3-D-24

16. 消波工
16－１　洗掘防止工 ・・・ 3-D-24
16－２　消波ブロック工 ・・ 3-D-24

17. 裏込・裏埋工
17－１　裏込工 ・・・ 3-D-25
17－２　裏埋工 ・・・ 3-D-25
17－３　裏埋土工 ・・ 3-D-25

18. 陸上地盤改良工
18－１　圧密・排水工 ・・・ 3-D-26
18－２　締固工 ・・・ 3-D-26
18－３　固化工 ・・・ 3-D-26

19. 土　工
19－１　掘削工 ・・・ 3-D-26
19－２　盛土工 ・・・ 3-D-26
19－３　路床盛土工 ・・・ 3-D-26
19－４　法面工 ・・・ 3-D-26

20. 舗装工
20－１　コンクリート舗装工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-27
20－２　アスファルト舗装工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-27

21.　維持補修工
21－１　維持塗装工 ・・・ 3-D-27
21－２　防食工 ・・・ 3-D-27

22. 構造物撤去工
22－１　取壊し工 ・・ 3-D-27
22－２　撤去工 ・・・ 3-D-27

23. 仮設工
23－１　仮設鋼矢板工 ・・・ 3-D-28
23－２　仮設鋼管杭・鋼管矢板工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-28
23－３　仮設道路工 ・・・ 3-D-28

24. 雑　工
24－１　現場鋼材溶接工 ・・ 3-D-29
24－２　現場鋼材切断工 ・・ 3-D-29
24－３　その他雑工 ・・・ 3-D-29

25. 浚渫工
25－１　ポンプ浚渫工 ・・・ 3-D-29
25－２　グラブ浚渫工 ・・・ 3-D-30
25－３　硬土盤浚渫工 ・・・ 3-D-30
25－４　岩盤浚渫工 ・・ 3-D-30
25－５　バックホウ浚渫工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-30

26. 埋立工
26－１　固化工 ・・・ 3-D-30
26－２　埋立土工 ・・ 3-D-30

27. 道路舗装工
27－１　コンクリート舗装工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-30
27－２　アスファルト舗装工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-30
27－３　道路付属工 ・・・ 3-D-31

28. 緑地工
28－１　植生工 ・・・ 3-D-31

様式・出来形 1-1-2(1) ；敷砂出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-32
様式・出来形 1-1-2(2) ；敷砂出来形管理図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-33
様式・出来形 1-2-2(1) ；ｻﾝﾄﾞｺﾝﾊﾟｸｼｮﾝﾊﾟｲﾙ出来形管理表 ・・・・・・・・・・・ 3-D-34
様式・出来形 1-2-2(2) ；砂投入管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-35
様式・出来形 1-2-2(3) ；締固工深浅図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-36
様式・出来形 1-3-1(1) ；深層混合処理杭出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・ 3-D-37
様式・出来形 1-3-1(2) ；深層混合処理杭鉛直度管理表 ・・・・・・・・・・・・・ 3-D-38
様式・出来形 1-4-1(1) ；洗掘防止マット出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・ 3-D-39
様式・出来形 1-4-1(2) ；洗掘防止マット出来形管理図 ・・・・・・・・・・・・・ 3-D-40
様式・出来形 1-5-1 ；砂・石材中詰出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-41
様式・出来形 1-6-1 ；蓋コンクリート出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・ 3-D-42
様式・出来形 1-8-2 ；鋼矢板出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-43
様式・出来形 1-9-5 ；腹起出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-44
様式・出来形 1-9-6 ；タイ材出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-45
様式・出来形 1-10-2(1) ；鋼杭打込記録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-46
様式・出来形 1-10-2(2) ；鋼杭出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-47
様式・出来形 1-12-1(1) ；電気防食出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-48
様式・出来形 1-12-1(2) ；電気防食電位測定管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-49
様式・出来形 1-13-1(1) ；路盤出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-50
様式・出来形 1-13-1(2) ；路盤出来形管理図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-51
様式・出来形 1-14-3(1) ；舗装出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-52
様式・出来形 1-14-3(2) ；舗装出来形管理図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-53
様式・出来形 1-14-3(3) ；舗装出来形管理図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-54 ←国にはない
様式・出来形 3-2-1 ；置換材出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-55
様式・出来形 4-3-2(1) ；基礎石均し出来形管理図(1) ・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-56
様式・出来形 4-3-2(2) ；基礎石均し出来形管理図(2) ・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-57
様式・出来形 5-1-1 ；ケーソン製作出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-58
様式・出来形 5-2-1 ；ケーソン据付出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-59
様式・出来形 6-1(1) ；ブロック(方塊) 製作出来形管理表 ・・・ 3-D-60
様式・出来形 6-1(2) ；Ｌ型ブロック製作出来形管理表 ・・・・・・・・・・・ 3-D-61
様式・出来形 6-1(3) ；セルラーブロック製作出来形管理表 ・・・・・・・ 3-D-62
様式・出来形 6-1(4) ；ブロック製作等外見チェックリスト ・・・・・・・ 3-D-63
様式・出来形 13-1-1(1) ；被覆石均し出来形管理図(1) ・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-64
様式・出来形 13-1-1(2) ；被覆石均し出来形管理図(2) ・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-65
様式・出来形 13-3-1 ；根固ブロック製作出来形管理表 ・・・・・・・・・・・ 3-D-66
様式・出来形 14-1(1) ；上部コンクリート(防波堤)出来形管理表 ・・・ 3-D-67
様式・出来形 14-1(2) ；上部コンクリート(岸壁)出来形管理表 ・・・・・ 3-D-68
様式・出来形 15-1-1 ；係船柱出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-69
様式・出来形 15-2-1 ；防舷材出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-70
様式・出来形 15-3-1 ；車止出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-71
様式・出来形 17-3-1 ；土砂掘削出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-72
様式・出来形 24-1-1(1) ；すみ肉溶接出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-73
様式・出来形 24-1-1(2) ；突合わせ溶接出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-74
様式・出来形 24-1-1(3) ；鉄筋フレア溶接出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・ 3-D-75
様式・出来形 25-1(1) ；浚渫出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-76
様式・出来形 25-1(2) ；浚渫出来形管理図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-D-77

１．共通的工種

１－１　圧密・排水工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. サンドドレーン	位　置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。	1cm	管理図に測定結果を記入し提出	±10cm	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全　数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 ＋規定しない －0 先端深度 ＋0 －規定しない	＋;設計値より浅い(高い)ことをいう。 －;設計値より深い(低い)ことをいう。 (　)内は陸上。
	砂の投入量	打込記録の確認	全　数	0.1m^3	打込記録紙に砂の圧入量を記入し提出		
2. 敷砂均し	延　長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	＋規定しない －0	様式・出来形1-1-2参照
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部;スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端高1cm 天端幅10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±30cm天端幅、法面勾配は(特)による。	
		水中部;スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			
3. 載荷土砂	延　長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	＋規定しない －0	
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部;スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端幅10cm 天端高1cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±50cm 天端幅、法面勾配は(特)による。	
		水中部;スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			
4. ペーパードレーン	位　置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。	1cm	管理図に測定結果を記入し提出	±10cm	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全　数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 ＋規定しない －0 先端深度 ＋0 －規定しない	＋;設計値より浅い(高い)ことをいう。 －;設計値より深い(低い)ことをいう。 (　)内は陸上。
	ドレーン材の打込長	打込記録の確認	全　数	10cm	打込記録紙に打込長を記入し提出		

5. グラベルマット	延　長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	＋規定しない －0	様式・出来形1-1-2参照
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部;スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端高1cm 天端幅10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±30㎝天端幅、法面勾配は(特)による。	
		水中部;スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			
6. グラベルドレーン	位　置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀による	移動毎及び監督職員の指示による。	1cm	管理図に測定結果を記入し提出	±10cm	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全　数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 ＋規定しない －0 先端深度 ＋0 －規定しない	＋;設計値より浅い(高い)ことをいう。 －;設計値より深い(低い)ことをいう。 (　)内は陸上。
	砕石の投入量	打込記録の確認	全　数	0.1m^3	打込記録紙に砕石の投入量を記入し提出		

１－２　締固工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. ロッドコンパクション	位　置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。	10cm	管理図に測定結果を記入し提出	±10cm	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
	充填材の投入量			1.0m^3	測定記録等の提出		
	天端高	打込記録の確認	全　数	10cm	打込記録の提出	天端高 ＋規定しない －0	
	先端深度	打込記録の確認	全　数	10cm	打込記録の提出	先端深度 ＋0 －規定しない	＋;設計値より浅い(高い)ことをいう。 －;設計値より深い(低い)ことをいう。 (　)内は陸上。

2. サンドコンパクションパイル	位　置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。	1cm	管理図に測定結果を記入し提出	±10cm	様式・出来形1-2-2参照 自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
	天端高 先端深度	打込記録の確認	砂杭全数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 ＋規定しない －0 先端深度 ＋0 －規定しない	＋;設計値より浅い(高い)ことをいう。 －;設計値より深い(低い)ことをいう。 (　)内は陸上。
	砂の投入量	打込記録の確認	砂杭全数	$0.1m^3$	打込記録紙に砂の圧入量を記入し提出		
	盛上り量	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	完了後 測線・測点間隔は(特)による。	10cm	盛上り量の平面図を作成し提出		
3. 盛上土砂撤去	撤去量	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	完了後 測線・測点間隔は(特)による。	10cm	撤去量の平面図を作成し提出		
4. 敷砂均し							1-1-2敷砂均しを適用する。

１－３　固化工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 深層混合処理杭	位　置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	海上施工は改良杭全数。 陸上施工は(特)による。	1cm	管理図に測定結果を記入し提出	トランシット及び光波測距儀等により測定する場合は(特)による。	様式・出来形1-3-1参照 自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
	鉛直度 接　合	トランシット及び傾斜計等により処理機の鉛直度を測定	改良杭全数　深度方向に2～5m程度毎に測定(引抜きと貫入時)	1分又は1cm	改良杭先端部の軌跡図を作成し提出	(特)による。	陸上施工は除く。
	天端高 先端深度	深度計、ワイヤー繰出長さ、潮位計、乾舷及び処理機等により確認	改良杭全数	1cm	打込記録紙又は打込記録データに天端高、先端深度を記入し管理表を提出	天端高 ＋規定しない －0 先端深度 ＋0 －規定しない	＋;設計値より浅い(高い)ことをいう。 －;設計値より深い(低い)ことをいう。 (　)内は陸上
	固化材吐出量	流量計等により固化材のm当りの吐出量を確認	改良杭全数	1ℓまたは1t	打込記録紙又は打込記録データに固化材吐出量を記入し提出		
	盛上り量	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	改良前、改良後	10cm	盛上り量の図面を作成し提出		
2. 敷砂均し							1-1-2敷砂均しを適用する。

3. 事前混合処理	延　長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	＋規定しない －0	
	天端高、天端幅	陸上部:スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端幅10cm 天端高1cm	管理図に天端高、天端幅を記入し提出	(特)による。	
		水中部:スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			
4. 表層固化処理	延　長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	＋規定しない －0	
	天端高、天端幅、厚さ	スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端幅10cm 天端高・厚さ1cm	管理図に天端高、天端幅、厚さを記入し提出	(特)による。	

１－４　洗掘防止工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 洗掘防止	敷設位置	スチールテープ、間縄等により測定	始、終端及び変化する箇所毎並びに20mに1箇所以上	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	(特)による。	様式・出来形1-4-1参照 アスファルトマット、繊維系マット、合成樹脂系マット、ゴムマット
	重ね幅	スチールテープ等により測定	1枚に2点	1cm	測定表及び敷設図を作成し提出	50cm以上(アスファルトマット・繊維系マット・ゴムマット) 30cm以上(合成樹脂系マット)	
	延　長	スチールテープ、間縄等により測定	マットの中心を区間毎及び全長	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	＋規定しない －10cm	

１－５　中詰工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 砂・石材中詰	天端高	レベル、スチールテープ等によりケーソン天端面からの下りを測定	1室につき1箇所(中心)	1cm	管理表を作成し提出	陸上±5cm 水中±10cm	様式・出来形1-5-1参照
2. コンクリート中詰 3. プレパックドコンクリート中詰	天端高	レベル、スチールテープ等によりケーソン天端面からの下りを測定	1室につき1箇所(中心)	1cm	管理表を作成し提出	陸上±3cm 水中±5cm	

１－６　蓋コンクリートエ

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 蓋コンクリート	天端高	レベル、スチールテープ等により測定	1室につき1箇所(中心)	1cm	管理表を作成し提出	陸上±3cm 水中±5cm	様式・出来形1-6-1参照

１－７　蓋ブロックエ

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 蓋ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出	幅　＋2cm,－1cm 高さ＋2cm,－1cm 長さ＋2cm,－1cm 壁厚±1cm	

	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出		
2. 蓋ブロック据付	蓋ブロック据付(天端高)	レベル、スチールテープ等により測定	1室につき1箇所	1cm	管理表を作成し提出		

１－８　鋼矢板工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 先行掘削	位　置	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	全　数	10cm	測定表を作成し提出	(特)による。	
	掘削長 掘削深度	レベル等により測定	全　数	10cm	測定表を作成し提出	(特)による。	＋:設計値より浅いことをいう －:設計値より深いことをいう
	掘削径	スチールテープ等により測定(水中の場合はケーシング径等により確認)	全数(水中の場合は適宜)	10cm	測定表を作成し提出	(特)による。	
2. 鋼矢板							
イ)鋼矢板	打込記録	(共) 5-3-13-2-(10)打込記録	40枚に1枚		打込記録を提出		様式・出来形1-8-2参照
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定(天端付近)	施工中適宜 打込完了時	1cm	管理表を作成し提出	＋矢板1枚幅 －0	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点	1cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
	矢板法線方向の傾斜		施工中適宜 打込完了時(両端部)	1cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板1枚幅未満 10/1000以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚	1cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察(水中部は潜水士)	全　数		観察結果を報告		
ロ)鋼管矢板	打込記録	(共)5-3-13-2-(10)打込記録	20本に1本		打込記録を提出		
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定(天端付近)	施工中適宜 打込完了時	1cm	管理表を作成し提出	(特)による。	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、10本に1本及び計画法線の変化点	1cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数確認後10本に1本及び変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
	矢板法線方向の傾斜		施工中適宜 打込完了時(両端部)	1cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板1枚幅未満 10/1000以下	

	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、10本に1本	1cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察(水中部は潜水士)	全　数		観察結果を報告		

1－9　控工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 控鋼矢板	打込記録	(共) 5-3-14-2-(10)打込記録	40枚に1枚		打込記録を提出		様式・出来形1-8-2参照
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定(天端付近)	施工中適宜 打込完了時	1cm	管理表を作成し提出	＋矢板1枚幅 －0	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点	1cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
	矢板法線方向の傾斜		施工中適宜 打込完了時(両端部)	1cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板1枚幅未満 10/1000以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚	1cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察(水中部は潜水士)	全　数		観察結果を報告		
2. 控鋼杭	打込記録	(共)5-3-14-3-(8)打込記録	20本に1本		打込記録を提出		様式・出来形1-10-2参照
	杭頭中心位置	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出	10cm以下	
	杭天端高	レベルにより測定	打込完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	杭の傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数	1°	管理表を作成し提出	直杭2°　以下 斜杭3°　以下	
3. プレキャストコンクリート控壁	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外後全数	1cm	管理表を作成し提出	幅　＋2cm,－1cm 高さ＋2cm,－1cm 長さ＋2cm,－1cm 壁厚±1cm	
	法線に対する出入	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1cm	管理表を作成し提出	(特)による。	
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)	1cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所	1cm	管理表を作成し提出		

4. 場所打コンクリート控壁	天端高又は厚さ	レベル、トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	±2cm	天端高又は厚さの管理項目の選定は(特)による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	±2cm	
	延長	スチールテープ等により測定	法線上	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0	
	法線に対する出入	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1cm	測定表を作成し提出	±3cm	
5. 腹　起	取付高さ	レベル等により測定	取付完了時、両端(継手毎)全数	1cm	管理表を作成し提出		様式・出来形1-9-5参照
	継手位置	観　察	取付完了時、全数		観察結果を報告		
	ボルトの取付け	観　察	取付完了時、全数		観察結果を報告		
	矢板と腹起しとの密着	観　察	タイロッド毎、全数		観察結果を報告		
6. タイ材							
イ)タイロッド取付	取付け高さ及び水平度	レベル等により測定	締付後両端、全数	1cm	管理表を作成し提出		様式・出来形1-9-6参照 腹起しに取り付ける場合は不要
	矢板法線に対する取付角度及び取付間隔	スチールテープ等により測定	締付後両端、全数	1cm	管理表を作成し提出		
	定着ナットの締付け	観　察	全　数		観察結果を報告	ねじ山が3つ山以上突き出していること。	
	ターンバックルのねじ込み長さ	観　察	全　数	1cm	観察結果を報告	定着ナットの高さ以上	
	リングジョイントのコンクリートへの埋込み	観　察	全　数		観察結果を報告		
	支保材の天端高	レベル等により測定	適　宜	1cm	管理表を作成し提出		
ロ)タイワイヤー取付	取付高さ	レベル等により測定	締付後両端、全数	1cm	管理表を作成し提出		腹起しに取り付ける場合は不要
	矢板法線に対する取付角度及び取付間隔	スチールテープ等により測定	締付後両端、全数	1cm	管理表を作成し提出		
	定着ナットの締付け	観　察	全　数		観察結果を報告	ねじ山が3つ山以上突き出していること。	
	定着具端部栓の取付け	観　察	全　数		観察結果を報告		

	トランペットシースの取付	観　察	全　数		観察結果を報告		

1－10　鋼杭工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 先行掘削							1-8-1先行掘削を適用する。
2. 鋼　杭	打込記録	(共)5-3-15-2-(9)打込記録	20本に1本		打込記録を提出		様式・出来形1-10-2参照
	杭頭中心位置	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出	10cm以下	
	杭天端高	レベル等により測定	打込完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	杭の傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数	1°	管理表を作成し提出	直杭2°　以下 斜杭3°　以下	

1－11　コンクリート杭工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. コンクリート杭	打込記録	JIS A 7201 記録	支持杭は全数、支持杭以外は20本に1本		JIS A 7201 付表5打込み工法記録を作成し提出		
	杭頭中心位置	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出	10cm以下	
	杭天端高	レベル等により測定	打込完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	杭の傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数	1°	管理表を作成し提出	直杭2°以下 斜杭3°以下	

1－12　防食工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 電気防食	取付位置	目視(承諾された図面より確認)潜水士による。	取付完了後、全数	1cm	測定表を作成し提出	±20cm　※水深の変状等により図面通りに取付が困難な場合は別途協議とする。	様式・出来形1-12-1参照
	電位測定	測定機器による。	取付完了後、測定端子取付箇所毎	1mV	測定表を作成し提出	飽和かんこう電極基準;－770mV 海水塩化銀基準;－780mV 又は飽和硫酸銅電極基準;－850mV	

2. FRPモルタル被覆	取付高さ (被覆範囲)	レベル等により測定	完了後、保護カバーの上端又は下端高さ (被覆範囲の確認) 鋼管杭;全　数 矢板;1打設3箇所以上	(特)による	測定表を作成し提出	(特)による	測定密度における矢板の1打設とは、コンクリートモルタルの配合1回当たりの打設を示す。
3. ペトロラタム被覆	取付高さ (被覆範囲)	レベル等により測定	完了後、保護カバーの上端又は下端高さ (被覆範囲の確認) 鋼管杭;全　数 矢板;監督職員の指示による	(特)による	測定表を作成し提出	(特)による	
4. コンクリート被覆	高さ (被覆範囲)	レベル等により測定	完了後、上端・下端高さ (被覆範囲の確認) 鋼管杭;全　数 矢板;1打設3箇所以上	(特)による	測定表を作成し提出	(特)による	測定密度における矢板の1打設とは、コンクリートモルタルの配合1回当たりの打設を示す。
5. 防食塗装	高さ (被覆範囲)	レベル等により測定	完了後、上端・下端高さ (被覆範囲の確認) 鋼管杭;全　数 矢板;50㎡に1箇所以上	(特)による	測定表を作成し提出	(特)による	

１－13　コンクリート舗装工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 下層路盤	高　さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	1cm	測定表を作成し提出	±4cm	様式・出来形1-13-1参照
	厚　さ	レベル又は縁石等から水糸により路盤面までの高さを測定(路床との高低差により管理)	舗装は1,000m2に1箇所、道路舗装は(特)による。	1mm	測定表を作成し提出	＋規定しない －4.5cm	
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －5cm	
	延　長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0	
2. 上層路盤	厚　さ	レベル又は縁石等から水糸により上層路盤面までの高さを測定(下層路盤との高低差により管理)	舗装は1,000m2に1箇所、道路舗装は(特)による。	1mm	測定表を作成し提出	＋規定しない －2.5cm	
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －5cm	
	延　長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0	

3. コンクリート舗装版	厚　さ	レベル又は縁石等から水糸により路盤面までの高さを測定(路床との高低差により管理)	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －1cm	コンクリート版の厚さ、その他を確認するため、監督職員が必要と認めたときは、コアを採取する。
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1mm	測定表を作成し提出	＋規定しない －2.5cm	
	延　長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0	
	平坦性	3mプロフィルメータにより測定	各レーン毎全延長	1mm	記録紙及び管理表を作成し提出	機械舗設の場合 2mm以下 人力舗設の場合 3mm以下	

1－14　アスファルト舗装工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 下層路盤	高　さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	1cm	測定表を作成し提出	±5cm	
	厚　さ	レベル又は縁石等から水糸により路盤面までの高さを測定(路床との高低差により管理)	舗装は1,000m2に1箇所、道路舗装は(特)による。	1mm	測定表を作成し提出	＋規定しない －4.5cm	
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －5cm	
	延　長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0	
2. 上層路盤	厚　さ	レベル又は縁石等から水糸により上層路盤面までの高さを測定(下層路盤との高低差により管理)	舗装は1,000m2に1箇所、道路舗装は(特)による。	1mm	測定表を作成し提出	＋規定しない －3cm	
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －5cm	
	延　長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0	

3. 基　層	厚　さ	抜き取りコアをスチールテープ等で測定	1,000m^{2}に1箇所	1mm	測定表を作成し提出	＋規定しない －1.2cm	様式・出来形1-14-3参照 ・止むを得ない場合は、監督職員の承諾を得て、他の方法により管理することができる。 ・橋面舗装等で抜き取りコアにより床版等に損傷を与えるおそれがある場合は、他の方法により管理すること。 (参考:アスファルト合材量(プラント出荷数量)と舗設面積及び厚さでの密度管理、又は転圧回数による管理など)
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1mm	測定表を作成し提出	＋規定しない －2.5cm	
	延　長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0	
4. 表　層	厚　さ	抜き取りコアをスチールテープ等で測定	1,000m^{2}に1箇所	1mm	測定表を作成し提出	＋規定しない －9mm	様式・出来形1-14-3参照 ・止むを得ない場合は、監督職員の承諾を得て、他の方法により管理することができる。
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1mm	測定表を作成し提出	＋規定しない －2.5cm	
	延　長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0	
	平坦性	3mプロフィルメータにより測定	各レーン毎全延長	1mm	記録紙及び管理表を作成し提出	2.4mm以下	

1－15　植生工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 張　芝 2. 筋　芝	材料の使用数量	使用数量表等により確認	施工完了後		使用数量表等を作成し提出		
	長さ、幅(面積)	スチールテープ等により測定	施工完了後	10cm (0.1m^2)	管理表を作成し提出	＋規定しない －0	
	植生状況	観　察	施工完了後、区域全体		観察結果を報告		
3. 播　種 4. 種子吹付	材料の使用数量	使用数量表等により確認	施工完了後		使用数量表等を作成し提出		
	長さ、幅(面積)	スチールテープ等により測定	施工完了後	10cm (0.1m^2)	管理表を作成し提出	＋規定しない －0	
	植生状況	(特)による。	(特)による。		(特)による。	(特)による。	

5. 植　栽	材料の使用数量	使用数量表等により確認	搬入時、全数		使用数量表等を作成し提出		
	樹高、枝張り幅、幹周り	スチールテープ等により測定	種類毎、搬入後適宜	樹高、枝張り幅10cm 幹周り 1cm	管理表を作成し提出	＋規定しない －0	
	植付け状況	観　察	施工完了後、全本数		観察結果を報告		

２．土捨工

３．海上地盤改良工

３－１　床掘工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. ポンプ床掘 2. グラブ床掘 3. 硬土盤床掘 4. 砕岩床掘 5. バックホウ床掘	水　深 (底面)	音響探査機、レッド又はレベル等により測定	(特)による。	10cm	平面図に実測値を記入し提出	±30cm又は(特)による。	断面図は監督職員が指示したとき作成し提出
	(法面)	音響探査機、レッド又はレベル等により測定	(特)による。	10cm	平面図に実測値を記入し提出	外側2m(法面に直角) 内側30cm(法面に直角)又は(特)による。	

３－２　置換工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 置換材均し	延　長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	＋規定しない －0	様式・出来形3-2-1参照
	天端高、天端幅、法面	陸上部;スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下測点間隔10m以下	天端高1cm 天端幅10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高　±50cm又は(特)による 天端幅、法面は(特)による。	
		水中部;スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下測点間隔20m以下	10cm			

３－３　圧密・排水工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
圧密・排水工							1-1圧密・排水工を適用する。

３－４　締固工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
締固工							1-2締固工を適用する。

３－５　固化工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
固化工							1-3固化工を適用する。

４．基礎工

４－１　基礎盛砂工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．盛砂均し	延　長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	＋規定しない －0	様式・出来形1-1-2参照
	天端高 天端幅 法面勾配	スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高　±30cm天端幅、法面勾配は(特)による。	

４－２　洗掘防止工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
洗掘防止工							1-4洗掘防止工を適用する。

４－３　基礎捨石工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．基礎捨石 (均しを伴わない面)	天端高	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	(特)による。	
	法　面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下測点3点以上、但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上	10cm	出来形図を作成し提出	(特)による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	(特)による。	
	延　長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の指示による。	10cm	出来形図を作成し提出	(特)による。	
2．捨石本均し	天端高	レベル又は(特)により測定	測線及び測点間隔は10m以下	1cm	出来形図を作成し提出	±5cm	様式・出来形4-3-2参照
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	＋規定しない －10cm	
	延　長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の指示による。	10cm	出来形図を作成し提出	＋規定しない －10cm	
3．捨石荒均し	天端高	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	注)-1　±50cm、岸壁前面＋0,－20cm又は(特)による。 異形ブロック据付面(整積)の高さ(法面に直角)±30cm 又は(特)による。	注)-1　係留施設・護岸・土留壁等の背面については、荒均しを適用しない。
	法　面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下測点3点以上、但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上	10cm	出来形図を作成し提出	注)-2　±50cm(法面に直角) 異形ブロック据付面(整積)の高さ(法面に直角)±30cm 又は(特)による。	注)-2 係留施設・護岸・土留壁等の背面については、荒均しを適用しない。

	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	＋規定しない －10cm	
	延　長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の指示による。	10cm	出来形図を作成し提出	＋規定しない －10cm	

４－４　基礎ブロック工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 基礎ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出	幅　＋2cm,－1cm 高さ＋2cm,－1cm 長さ＋2cm,－1cm 壁厚±1cm	様式・出来形6-1参照 ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出		
	型枠形状寸法(異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を記録・整理 ただし、監督職員の請求があった場合に提示		
	ブロック外観(異形ブロッ	観察	全　数		観察結果を報告		
2. 基礎ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1cm	管理表を作成し提出	ブロック(方塊) 3cm以下	
	延　長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)	1cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最上段のみ)	1cm	管理表を作成し提出		

５．本体工（ケーソン式）

５－１　ケーソン製作工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. ケーソン製作	摩擦増大用マット敷設位置	スチールテープ等により確認	始・終端及び変化する箇所毎	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	(特)による。	
	高　さ	スチールテープ等により測定	完成時、四隅	1cm	管理表を作成し提出	＋3cm －1cm	様式・出来形5-1-1参照
	幅	スチールテープ等により測定	各層完成時に中央部及び底版と天端は両端	1cm	管理表を作成し提出	＋3cm －1cm	
	長　さ	スチールテープ等により測定	各層完成時に中央部及び底版と天端は両端	1cm	管理表を作成し提出	＋3cm －1cm	
	壁　厚	スチールテープ等により測定	各層完成時、各壁1箇所	1cm	管理表を作成し提出	±1cm	
	底版厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	底版完成時、各室中央部1箇所	1cm	管理表を作成し提出	＋3cm －1cm	

	フーチング高さ	スチールテープ等により測定	底版完成時、四隅	1cm	管理表を作成し提出	＋3cm －1cm	
	対角線	スチールテープ等により測定	底版完成時及び完成時	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	バラスト	レベル、レッド等により測定	各室中央部1箇所	1cm	管理表を作成し提出	砕石・砂　±10cm ｺﾝｸﾘｰﾄ　±5cm	投入量管理

５－２　ケーソン進水据付工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. ケーソン進水据付	法線に対する出入	トランシット及びスチールテープ等により測定	据付完了後、両端2箇所	1cm	管理表を作成し提出	防波堤　ｹｰｿﾝ質量 2,000t未満±20cm 2,000t以上±30cm 岸　壁　ｹｰｿﾝ質量 2,000t未満±10cm 2,000t以上±15cm	様式・出来形5-2-1参照
	据付目地間隔	スチールテープ等により測定	据付完了後、天端2箇所	1cm	管理表を作成し提出	防波堤　ｹｰｿﾝ質量 2,000t未満 20cm以下 2,000t以上 30cm以下 岸　壁　ｹｰｿﾝ質量 2,000t未満 10cm以下 2,000t以上 20cm以下	
	天端高さ	レベルにより測定	据付完了後、四隅 中詰完了時、四隅	1cm	管理表を作成し提出		
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上	1cm	管理表を作成し提出		

５－３　中詰工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
中詰工							1-5中詰工を適用する。

５－４　蓋コンクリート工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
蓋コンクリート工							1-6蓋コンクリート工を適用する。

５－５　蓋ブロック工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
蓋ブロック工							1-7蓋ブロック工を適用する。

６．本体工（ブロック式）

６－１　本体ブロック製作工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 本体ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出	幅　＋2cm,－1cm 高さ＋2cm,－1cm 長さ＋2cm,－1cm 壁厚±1cm	様式・出来形6-1参照 L型ブロック セルラーブロック ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出		様式・出来形6-1参照 セルラーブロック ブロック(方塊)
	型枠形状寸法(異形ブロック)	観　察	型枠搬入後適宜		観察結果を記録・整理 ただし、監督職員の請求があった場合に提示		
	ブロック外観(異形ブロック)	観　察	全　数		観察結果を報告		

６－２　本体ブロック据付工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 本体ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1cm	管理表を作成し提出	L型ブロック セルラーブロック 5cm以下 直立消波ブロック ブロック(方塊) 3cm以下	
	延　長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)	1cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最上段のみ)	1cm	管理表を作成し提出		

６－３　中詰工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
中詰工							1-5中詰工を適用する。

６－４　蓋コンクリート工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
蓋コンクリート工							1-6蓋コンクリート工を適用する。

６－５　蓋ブロック工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
蓋ブロック工							1-7蓋ブロック工を適用する。

７．本体工（場所打式）

７－１　場所打コンクリートエ

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
場所打コンクリート工							
イ)防波堤	天端高又は厚さ	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上	1cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は±2cm 天端幅10mを超える場合は＋5cm－2cm	様式・出来形14-1参照 天端高さ又は厚さの管理項目の選定は(特)による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は±3cm 天端幅10mを超える場合は＋5cm－3cm	
	延　長	スチールテープ等により測定	法線上	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1cm	測定表を作成し提出	±5cm 注) 又は(特)による。	
ロ)岸壁	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	±2cm	天端高さ又は厚さの管理項目の選定は(特)による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	±2cm	
	延　長	スチールテープ等により測定	法線上	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1cm	測定表を作成し提出	±3cm	
	防舷材ベッド	スチールテープ等により測定	スパン毎	1cm	測定表を作成し提出		

７－２　水中コンクリートエ

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
水中コンクリート工							7-1場所打コンクリート工を適用する。

７－３　プレパックドコンクリートエ

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
プレパックドコンクリート工							7-1場所打コンクリート工を適用する。

７－４　水中不分離性コンクリートエ

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
水中不分離性コンクリート工							7-1場所打コンクリート工を適用する。

８．本体工（捨石・捨ブロック式）

８－１　洗掘防止工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
洗掘防止工							1-4洗掘防止工を適用する。

８－２　本体捨石工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
本体捨石工							4-3基礎捨石工を適用する。

８－３　捨ブロック工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 捨ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出	幅　＋2cm,－1cm 高さ＋2cm,－1cm 長さ＋2cm,－1cm 壁厚±1cm	様式・出来形6-1参照 ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出		
	型枠形状寸法 (異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を記録・整理 ただし、監督職員の請求があった場合に提示		
	ブロック外観 (異形ブロック)	観察	10個に1個以上測定		観察結果を報告		
2. 捨ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1cm	管理表を作成し提出	ブロック(方塊) 3cm以下	
	延　長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)	1cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最上段のみ)	1cm	管理表を作成し提出		

８－４　場所打コンクリート工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 場所打コンクリート工	天端高	レベル等により測定	天端面は1スパン4個以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上	1cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は±2cm 天端幅10mを超える場合は＋5cm－2cm	様式・出来形14-1参照 天端高さの管理項目の選定は(特)による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は±3cm 天端幅10mを超える場合は＋5cm－3cm	

	延長	スチールテープ等により測定	法線上	1cm	測定表を作成し提出	+規定なし -0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1cm	測定表を作成し提出	±5cm 注)又は(特)による。	

９．本体工（鋼矢板式）

９－１　鋼矢板工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
鋼矢板工							1-8鋼矢板工を適用する。

９－２　控　工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
控　工							1-9控工を適用する。

10．本体工（コンクリート矢板式）

10－１　コンクリート矢板工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．コンクリート矢板	矢板壁延長	スチールテープ等により測定(天端付近)	施工中適宜 打込完了時	1cm	管理表を作成し提出	＋矢板1枚幅 －0	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点	1cm	管理表を作成し提出	(特)による。	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	(特)による。	
	矢板法線方向の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時(両端部)	1cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板1枚幅未満2/100以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察(水中部は潜水士)	全　数		観察結果を報告		

10－２　控　工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
控　工							1-9控工を適用する。

11．本体工（鋼杭式）

11－１．鋼杭工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
鋼杭工							1-10鋼杭工を適用する。

12．本体工（コンクリート杭式）

12－１　コンクリート杭工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
コンクリート杭工							1-11コンクリート杭工を適用する。

13. 被覆・根固工

13－１ 被覆石工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 被覆石 (均しを伴わない面)	天端面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	(特)による。	様式・出来形13-1-1参照
2. 被覆石均し	天端面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	±50cm 異形ブロック据付面(整積)の高さ±30cm 岸壁前面 ＋0、－20cm又は(特)による。	
	法 面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下、測点3点以上但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上	10cm	出来形図を作成し提出	±50cm(法面に直角)異形ブロック据付面(整積)の高さ(法面に直角)±30cm又は(特)による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	＋規定しない －20cm	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。	10cm	出来形図を作成し提出	＋規定しない －20cm	

13－２ 被覆ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 被覆ブロック製作	型枠形状寸法(異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を記録・整理 ただし、監督職員の請求があった場合に提示		
	ブロック外観(異形ブロック)	観察	10個に1個以上		観察結果を報告		
2. 被覆ブロック据付	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)	10cm	管理表を作成し提出		

13－３ 根固ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 根固ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出	幅 ＋2cm,－1cm 高さ＋2cm,－1cm 長さ＋2cm,－1cm 壁厚±1cm	様式・出来形13-3-1参照
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出		
2. 根固ブロック据付							13-2-2被覆ブロック据付を適用する。

14. 上部工

14－１　上部コンクリート工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
上部コンクリート工							
イ)防波堤	天端高又は厚さ	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上	1cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は±2cm 天端幅10mを超える場合は＋5cm－2cm	様式・出来形14-1参照 天端高さ又は厚さの管理項目の選定は(特)による。 注)本体がケーソンの場合 ケーソン質量 2,000t未満 ±20cm 2,000t以上 ±30cm
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は±3cm 天端幅10mを超える場合は＋5cm－3cm	
	延　長	スチールテープ等により測定	法線上	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1cm	測定表を作成し提出	±5cm 注) 又は(特)による。	
ロ)岸　壁	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	±2cm	天端高又は厚さの管理項目の選定は(特)による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	±2cm	
	延　長	スチールテープ等により測定	法線上	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1cm	測定表を作成し提出	±3cm	
	防舷材ベッド	スチールテープ等により測定	スパン毎	1cm	測定表を作成し提出		
ハ)桟　橋							14-1上部コンクリート工 ロ)岸壁を適用する。 梁(高さ、幅)、床版厚は型枠検査による。

14－２　上部ブロック工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 上部ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出	幅　＋2cm,－1cm 高さ＋2cm,－1cm 長さ＋2cm,－1cm 壁厚±1cm	
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出		
2. 上部ブロック据付							
イ)防波堤							14-1上部コンクリート工 ｲ)防波堤を適用する。
ロ)岸　壁							14-1上部コンクリート工 ロ)岸壁を適用する。

ハ)桟橋上部コンクリート							14-1上部コンクリート工 ハ)桟橋を適用する。

15. 付属工

15－１　係船柱工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1.係船柱	天端高	レベルにより測定	据付完了時、中心部、全数	1cm	管理表を作成し提出	曲柱±2cm 直柱±2cm	様式・出来形15-1-1参照
	岸壁前面に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	据付完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出		
	中心間隔	スチールテープ等により測定	据付完了時、各スパン毎中心部、各基	1cm	管理表を作成し提出		
	直柱基礎コンクリート (幅)	スチールテープ等により測定	完了時、全数、天端両端	1cm	管理表を作成し提出		
	(長さ)	スチールテープ等により測定	完了時、全数、前後面	1cm	管理表を作成し提出		
	(高さ)	レベルにより測定	完了時、全数、中心点	1cm	管理表を作成し提出		

15－２　防舷材工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1.防舷材	取付高さ	レベル又はスチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数	1cm	管理表を作成し提出		様式・出来形15-2-1参照
	中心間隔	スチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数	1cm	管理表を作成し提出		

15－３　車止・縁金物工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
車止・縁金物工	天端高	レベルにより測定	取付完了時、中心部、全数	1cm	管理表を作成し提出		様式・出来形15-3-1参照
	岸壁前面に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	取付完了後中心部を1点	1cm	管理表を作成し提出	±3cm	
	取付間隔	スチールテープ等により測定	上部工1スパンに2箇所	1cm	管理表を作成し提出		
	塗　装	目視による観察			観察結果を報告		
	警戒色 (シマ模様)	スチールテープ等により測定	完了時適宜		確認結果を報告		

15－４　防食工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
防食工							1-12防食工を適用する。

15－５　付属設備工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
係船環	取付位置	スチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数	1cm	管理表を作成し提出		

16. 消波工

16－１　洗掘防止工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
洗掘防止工							1-4洗掘防止工を適用する。

16－２　消波ブロック工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 消波ブロック製作	型枠形状寸法(異形ブロック)	観　察	型枠搬入後適宜		観察結果を記録・整理 ただし、監督職員の請求があった場合に提示		
	ブロック外観(異形ブロック)	観　察	10個に1個以上測定		観察結果を報告		
2. 消波ブロック据付	延　長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)	10cm	管理表を作成し提出		

17. 裏込・裏埋工

17－１　裏込工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 裏込材 (均しを行わない面)	天端面	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は10m以下	陸上　1cm 水中　10cm	出来形図を作成し提出	(特)による。	
	法　面	レベル、レッドにより測定	測点は3点以上	10cm	出来形図を作成し提出	(特)による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	(特)による。	
	延　長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。	10cm	出来形図を作成し提出	(特)による。	
2. 裏込均し	天端高	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は10m以下	陸上　1cm 水中　10cm	出来形図を作成し提出	±20cm	
	法　面	レベル、レッドにより測定	測点は3点以上	10cm	出来形図を作成し提出	±20cm (法面に直角)	マット等を使用する場合を含む。
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	＋規定しない －10cm	
	延　長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。	10cm	出来形図を作成し提出	＋規定しない －10cm	
3. 吸出し防止材	敷設位置	スチールテープ、間縄等により測定	始、終端及び変化する箇所毎並びに20mに1箇所以上	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	(特)による。	様式・出来形1-4-1参照 アスファルトマット、繊維系マット、合成樹脂系マット
	重ね幅	スチールテープ等により測定	1枚に2点	1cm	測定表及び敷設図を作成し提出	50cm以上(アスファルトマット・繊維系マット) 30cm以上(合成樹脂系マット)	

	延長	スチールテープ、間縄等により測定	マットの中心を区間毎及び全長	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	+規定しない -10cm	

17－２　裏埋工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
裏埋材	地盤高 (陸上部)	レベル等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	1cm	平面図に実測値を記入し提出	(特)による。	変化点は測定する。
	(水中部)	レベル、レッド及び音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm	平面図に実測値を記入し提出	(特)による。	変化点は測定する。

17－３　裏埋土工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．土砂掘削 2．土砂盛土	地盤高	レベル等により測定	法肩、法尻及び中心を延長20mに1箇所以上	1cm	測定表を作成し提出	(特)による。	様式・出来形17-3-1参照
	幅	スチールテープ等により測定	延長20mに1箇所以上	10cm	測定表を作成し提出	(特)による。	
	法長	スチールテープ等により測定	延長20mに1箇所以上	10cm	測定表を作成し提出	(特)による。	
	延長	スチールテープ等により測定	両端及び中心	10cm	測定表を作成し提出	(特)による。	

18. 陸上地盤改良工

18－１　圧密・排水工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
圧密・排水工							1-1圧密・排水工を適用する。

18－２　締固工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
締固工							1-2締固工を適用する。

18－３　固化工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
固化工							1-3固化工を適用する。

19. 土　工

19－１　掘削工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．土砂掘削							17-3-1土砂掘削を適用する。

19－２　盛土工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．土砂盛土							17-3-2土砂盛土を適用する。

19－３　路床盛土工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 路床盛土	高　さ	レベルにより測定、及び縁石等から水糸により路床面までの高さを測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	1cm	測定表を作成し提出	±5cm	
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －10cm	
	延　長	スチールテープ等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0	

19－４　法面工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 法面							17－3－1土砂掘削、17－3－2土砂盛土及び1－15植生工を適用する。

20－１　コンクリート舗装工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
コンクリート舗装工							1-13コンクリート舗装工を適用する。

20－２　アスファルト舗装工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
アスファルト舗装工							1-14アスファルト舗装工を適用する。

21. 維持補修工

21－１ 維持塗装工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 係船柱塗装	塗装箇所	目視(承諾された図面より確認)	塗装完了後、全数		確認結果を提出	(特)による。	
2. 車止塗装							
イ)鋼　製	塗装箇所	目視(承諾された図面より確認)	塗装完了後、全数		確認結果を提出	(特)による。	
ロ)その他	塗装箇所	目視(承諾された図面より確認)	塗装完了後、全数		確認結果を提出	(特)による。	
3. 縁金物塗装							21-1-2車止塗装を適用する。

21－２　防食工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
防食工							1-12防食工を適用する。

22. 構造物撤去工

22－１　取壊し工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. コンクリート取壊し	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	(特)による。	(特)による。	管理表を作成し提出	(特)による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	(特)による。		観察結果を報告	(特)による。	

22－２　撤去工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 水中コンクリート撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	(特)による。	(特)による。	管理表を作成し提出	(特)による。	
	外　観	潜水士による観察	(特)による。		観察結果を報告		
2. 鋼矢板等切断撤去	幅、高さ、延長	スチールテープ等により測定	(特)による。	1cm	測定表を作成し提出	(特)による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	(特)による。		観察結果を報告		
3. 腹起・タイ材撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	(特)による。	(特)による。	測定表を作成し提出	(特)による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	(特)による。		観察結果を報告		
4. 舗装版撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	(特)による。	(特)による。	管理表を作成し提出	(特)による。	
	外　観	目視による観察	(特)による。		観察結果を報告		
5. 石材撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	(特)による。	(特)による。	管理表を作成し提出	(特)による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	(特)による。		観察結果を報告		
6. ケーソン撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	(特)による。	(特)による。	測定表を作成し提出	(特)による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	(特)による。		観察結果を報告		
7. ブロック撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	(特)による。	(特)による。	測定表を作成し提出	(特)による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	(特)による。		観察結果を報告		
8. 鋼矢板・H形鋼杭引抜き撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	(特)による。	1cm	測定表を作成し提出	(特)による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	(特)による。		観察結果を報告		

23. 仮設工

23－１ 仮設鋼矢板工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 仮設鋼矢板･H形鋼杭	矢板天端高	レベル等により測定	打設完了時、20枚に1枚(H形鋼杭は全数)	1cm	管理表を作成し提出	±10cm	
	根入長	レベル等により測定	打設完了時、20枚に1枚(H形鋼杭は全数)	10cm	管理表を作成し提出	＋規定しない －0	

23－２ 仮設鋼管杭・鋼管矢板工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 先行掘削							1-8-1先行掘削を適用する。 (任意仮設は除く。)
2. 仮設鋼管杭･鋼管矢板工							1-8-2鋼矢板式 ロ)鋼管矢板及び1-10-2鋼杭を適用する。 (任意仮設は除く。)

23－３　仮設道路工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 仮設道路工							1-13コンクリート舗装工及び1-14アスファルト舗装工を適用する。

24. 雑　工

24－１　現場鋼材溶接工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 現場鋼材溶接	形状寸法(のど厚、脚長、溶接長等)	スチールテープ、ノギス、溶接ゲージ等により測定	適　宜	1mm	測定表を作成し提出	(特)による。	様式･出来形24-1-1参照
	ひずみ	目視による観察	全　数		観察結果を報告		
	有害な欠陥の有　無	目視による観察	適　宜		観察結果を報告		
2. 被覆溶接(水中)	形状寸法(のど厚、脚長、溶接長等)	スチールテープ、ノギス、溶接ゲージ等により測定	適　宜	1mm 溶接長は1cm	測定表を作成し提出	(特)による。	
	外　観	潜水士による観察	全　数		観察結果を報告		
3. スタッド溶接(水中)							24-1-2被覆溶接(水中)を適用する。

24－２　現場鋼材切断工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 現場鋼材切断							
イ)陸上現場切断	形状寸法	スチールテープ等により測定	全　数	1mm	測定表を作成し提出	(特)による。	
	外　観	目視による観察	全　数		観察結果を報告		

ロ)水中切断	形状寸法	スチールテープ等により測定	全　数	1mm	測定表を作成し提出	(特)による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	全　数		観察結果を報告		

24－３　その他雑工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1.清　掃	幅、長さ、延長	スチールテープ等により測定	全　数	1mm	測定表を作成し提出	(特)による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	全　数		観察結果を報告		
2.削　孔	形状寸法	スチールテープ等により測定	全　数	1mm	測定表を作成し提出	(特)による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	全　数		観察結果を報告		

25.　浚渫工

25－１　ポンプ浚渫工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1.ポンプ浚渫	水　深 (底面)	音響探測機、レッド又はレベル等により測定	(特)による。	10cm	平面図に実測値を記入し提出	＋0 －規定しない又は(特)による。	様式・出来形25-1参照 ＋;設計値より浅いことをいう。 －;設計値より深いことをいう。
	(法面)	音響探測機、レッド又はレベル等により測定	(特)による。	10cm	平面図に実測値を記入し提出	＋0 －規定しない又は(特)による。	

25－２　グラブ浚渫工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1.グラブ浚渫							25-1ポンプ浚渫を適用する。

25－３　硬土盤浚渫工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1.硬土盤浚渫							25-1ポンプ浚渫を適用する。

25－４　岩盤浚渫工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1.砕岩浚渫							25-1ポンプ浚渫を適用する。

25－５　バックホウ浚渫工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1.バックホウ浚渫							25-1ポンプ浚渫を適用する。

26. 埋立工

26－１　固化工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
固化工							1-3固化工を適用する。

26－２　埋立土工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 土砂掘削							17-3-1土砂掘削を適用する。
2. 土砂盛土							17-3-2土砂盛土を適用する。

27. 道路舗装工

27－１　コンクリート舗装工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
コンクリート舗装工							1-13コンクリート舗装工を適用する。

27－２　アスファルト舗装工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
アスファルト舗装工							1-14アスファルト舗装工を適用する。

27－３　道路付属工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 縁　石	高　さ	レベルにより測定	監督職員の指示による。	1cm	測定表を作成し提出	±3cm	
	総延長	スチールテープ等により測定	図面に記載する箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0cm	
2. 区画線及び道路標示	幅	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。	1cm	測定表を作成し提出	±1cm	
	長　さ	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0cm	
3. 道路標識	高　さ	スチールテープ等により測定	1箇所に1回	1cm	測定表を作成し提出	±5cm	
4. 防護柵	高　さ	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。	1cm	測定表を作成し提出	＋3cm －2cm	
	総延長	スチールテープ等により測定	図面に記載する箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0cm	
5. 基礎砕石	幅 厚さ	スチールテープ等により測定	20mごとに及び断面の変化点	1cm	測定表を作成し提出	幅　-5cm以内 厚さ -3cm以内	
6. 基礎コンクリート	幅 厚さ	スチールテープ等により測定	20mごとに及び断面の変化点	1cm	測定表を作成し提出	幅　-1cm以内 厚さ -1cm以内	
7. 街渠コンクリート	幅 厚さ	スチールテープ等により測定	20mごと	1cm	測定表を作成し提出	幅　-1cm以内 厚さ -1cm以内	

8. コンクリート擁壁(高さ≧240cm)	基準高 幅(底、天端) 高さ	スチールテープ等により測定	10mごと	1cm	測定表を作成し提出	基準高　±2cm 幅(底)　-3cm以内 幅(天端) -1cm以内 高さ(h<3m) 2cm以内 高さ(h≧3m) 6cm以内	
9. 側溝工	基準高 幅 内幅 高さ 厚さ	スチールテープ等により測定	10mごと及び断面の変化点	1cm	測定表を作成し提出	基準高　±2cm 幅　-1cm以内 内幅　-1cm以内 高さ　-1cm以内 厚さ　-1cm以内	
10. 境界ブロック等の場所打コンクリート	幅 高さ	スチールテープ等により測定	幅、高さ20mごと	1cm	測定表を作成し提出	-1cm以内	
11. 境界ブロック等のコンクリート基礎	幅 高さ	スチールテープ等により測定	幅、高さ20mごと	1cm	測定表を作成し提出	-1cm以内	
12. ガードレール、照明柱等の場所打コンクリート基礎	幅 高さ	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。	1cm	測定表を作成し提出	幅　-2cm以内 高さ　-3cm以内	
13. 全工種	延長	スチールテープ等により測定	全工種、全延長	1cm	測定表を作成し提出	＋規定なし －0	

28.　緑地工

28－１　植生工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
植生工							1-15植生工を適用する。